

令和6年度 学校経営方針

1 教育の方針

- 本校教育は公教育の理念に基づき法令を遵守し、県及び市の教育目標や重点を受け、児童の幸福を第一に保護者や地域の願いを大切にし、教職員の使命感と改善意識・課題意識に基づいた創意と工夫あふれる教育活動を創造する。
- 学習指導要領の趣旨・内容を理解し、適切な教育計画の作成と指導の改善を行う。

(1)「つなぐ ～いのち、学び、地域～」

第6次山形県教育振興計画を受け、かけがえのない自他のいのちを大切にし、縦横のいのちの糸をつなげる子どもの育成、自ら学び続ける子どもの育成、地域に根差し地域を愛する子どもの育成を目指す。

(2) 安心・安全を基盤に据えた学校づくり <安全は信頼の礎>

学校は子どもにとっても保護者にとっても、地域にとっても安心・安全な場でなくてはならない。安全教育・安全管理を組織的に行い、生活安全・交通安全・災害安全に万全を期す。基本的なルールが徹底し、子どもが安心して生活できる温かい人間関係のある教育を行う。

(3) 子どもに向き合い、率先垂範の指導を通した信頼と尊敬を基盤とした教育実践

常に子どもと共にあり、子どもの姿で教育を語ることができるようにする。子どもと向き合い、共に悩み、汗し、喜び、学び、人としての生き方を示すことで、子どもの信頼と尊敬に裏打ちされた豊かな教育実践を行う。

(4) 伸長・補短の指導と協働による教育の推進

積極的に子どもの良さを認め、伸ばすとともに、適切に課題を意識させて自尊感情を高め、主体的に自らの良さを伸ばし課題を追求する子どもを育てる。子どもの良さや課題を全職員で共有し、協働して組織的な指導ができるようにする。

(5) 創意と工夫に満ちた、活力あふれる教育活動の創造

教師の創造性豊かな生き生きとした姿は、子どもたちの意欲を育てる。改善なき実践は退行との意識を持ち、専門職として研修に励み、創意と工夫に満ちた教育活動を展開する。そのために働き方改革を進め、心身ともに健康で子どもたちのために努力できるようにする。

(6) 普通であることに地道に努力できる学校

当たり前のことを当たり前に継続することが心の安定、確実な成長、確実な教育成果につながる。当たり前のことを当たり前にし続けるのために、たゆまぬ努力ができる学校であり続ける。当たり前とは「子どもの学力の保障」「適正な勤務」の2点であり、評価検証しながら、絶えず改善していく姿勢を持ち続ける。

2 学校教育目標

「かしこく 明るく 元気な子ども」の育成

3 めざす学校像

「ひとみ輝く学校」 ☆ 子どものひとみが輝く場と時の創造

4 めざす子ども像

◇進んで学習する かしこい子ども

「かしこい」(基礎基本的知識技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性)

- ・基礎基本的な知識技能を身に付け、活用しながら、探究的に課題に取り組む子ども
- ・学ぶことと実生活や自己の将来をつなぎ、自ら進んで学習に向かう子ども
- ・よく考え、自分の意見や考えをみんなに伝え、学び合うことができる子ども
- ・人やものごとと自然とかかわり、体験を通して豊かな人間性を身につける子ども

◇思いやりのある 明るい子ども

「明るい」(夢、規律と秩序、人間関係調整力、前向きさ、人間性)

- ・元気なあいさつと、しっかりした返事、礼節と思いやりを大切にする子ども
- ・かかわりの中で自分や友だちのよさや違いに気づき、互いを認め大切にできる子ども
- ・夢を持ち、めあてを持って取り組み、振り返り向上しようとする子ども
- ・善悪の判断ができ、人や社会のためになることに気づき努力できる子ども

◇体をきたえる 元気な子ども

「元気」(健康、基本的生活習慣、粘り強さ・耐性、食)

- ・健康と安全の大切さを理解し、好ましい生活習慣をしっかり身につける子ども
- ・いろいろな運動を通して体を動かす良さを学び、心身の健康と体力を伸ばす子ども
- ・友だちと協力し、工夫してひたむきに働く子ども
- ・食の大切さを理解し、よく食べよく遊ぶ子ども

5 今年度の重点

「状況に応じた感染防止対策に万全を期し、落ち着いた前向きな心で 学力の向上」

「“日本一優しい学校を作ろう”を合言葉に、かかわりの中で思いやりの言動」

- 学習指導要領の趣旨・内容およびG I G Aスクール構想を踏まえ、全教職員体制で校内研究を推進し、教職員の資質能力の向上と児童の学力向上を図る。
- 日課や週時程の工夫、特別支援教育の視点を取り入れた教育活動等により、児童・教職員が共に、落ち着いて前向きな心を持って生活・学習できるようにする。
- 状況に応じた感染防止対策と、清掃や校内環境の整備に努め、児童・教職員が安心して効果的に活動できるようにする。
- 「日本一優しい学校を作ろう」を合言葉に、全ての学習場面、学校生活でのかかわりを「やさしさ」「思いやり」「いたわり」「尊敬」を意識して言葉や態度で表現できるようにする。

(1) 進んで学習するかしこい子どもを育てるために（学ぶ力の育成で学力の向上）

重点「校内研究の充実による学び方指導」

「組織的・計画的な基礎学力の充実と、教科担任制の推進」

「ペア学習、小集団学習の積極的活用」

「家庭学習の質の充実」

「読書・自学の充実」

(2) 思いやりのある明るい子どもを育てるために（安心できる学校づくり）

重点「基本的なルールの徹底と、めあてを持った生活」

「相手を意識したあいさつ、返事、話し方、態度で他を大切にすることを育成」

「SEL やコグトレ等の計画的実施で人間関係調整力を育成」

『やさしさ、思いやり、いたわり、尊敬』を伝える『言葉』『話し方』『文章』『行動』を具体的に示し、体験的に学ばせる場を設定」

「特別支援教育力向上に向けた校内研修の推進と、組織的な相談活動・生徒指導の実践」

(3) 体をきたえる元気な子どもを育てるために（健康な心と体で学力の向上）

重点「健康と安全に留意した生活習慣・運動習慣づくり」

「計画的な健康・安全教育の実施」

「安全な給食の実施」

「清掃指導の充実」

「体育科の授業に、準備体操として『アクティブ チャイルド プログラム』を導入

「日常的な体力づくりの推進」